

杜の伝言板

ゆるるる

特集

復興への道

**主役は地元住民
生きて活動することへの支援**

●生活支援プロジェクトK

3.11から動物たちに寄り添って

●NPO法人アニマルクラブ石巻

お弁当が繋ぐ心

●NPO法人あかねグループ



▲りんごラジオ



▲NPO法人あかねグループ

**名取地域の
被災者支援をつづける**

●国際交流協会ともだちin名取

**ジオラマ制作で心のケア
～3月10日の開上の町をもう一度～**

●NPO法人地球のステージ

放送を通して情報と町民をつなぐ

●りんごラジオ



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

●みやぎNPOプラザ

みやぎNPOプラザ開館10周年記念

NPOフォーラム開催

～NPOの過去、現在、未来を見据えた一日～

主役は地元住民 生きて活動するこゝへの支援 生活支援プロジェクトK



気仙沼市の被災地で、被災者の生活支援の活動をしてきた保健福祉関係者達が、長期的に心身のケアや生活相談を行えるような地域のサポートセンターが必要と考え、気仙沼市内の保健福祉関係者が中心となつて生活支援プロジェクトK(以下、プロジェクトK)を立ち上げました。四月から準備を始め八月二十日に設立総会を行い、現在は特定非営利活動法人設立認証の申請中です。設立したのはケアマネージャーや社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士等で三名の常勤スタッフもそれぞれ資格を持って活動しています。

NGOと協力して

プロジェクトKの設立や事務所の開設については認定NPO法人シエアII国際保健協力市民の会が協力しました。シエアは一九八三年から国際保健NGOとして、いのちを守る人を育てる保健医療支援活動を、タイやカンボジア、南アフリカ、日本等で進めています。東日本大震災後は気仙沼の在宅避難者を中心に巡回訪問や安否確認、健康相談を行ってきました。

そんな中、プロジェクトKの副代表理事で地元の福祉専門職の小松治さんと出会いました。外部からくる緊急支援

と地元のヘルスケアサービスがリンクしないと地元が復興しない。」と小松さん。緊急時、支援物資の医療品はとても重宝されました。しかし、地元の医療会社が再建したからも支援物資が継続していくと、いつまでたつても地元が再建していきません。

また、支援活動を継続的に行っているのは地元の団体です。地元のみか当事者だからこそ分かることが多くあります。プロジェクトKを立ち上げた方たちの中にも被害を受け仮設住宅で暮らしている人もいます。小松さんもその一人で「気仙沼には長期的に心身のケアや生活相談を行えるような地域のサポートセンターが必要と考えました。」と言っています。これらの声に賛同したシエアが協力団体として現在もバックアップをしています。NGOが協力して地元のNPOが立ち上がったという形は、今後の地域支援に大きく貢献していきます。

仮設住宅で健康相談

プロジェクトKの活動拠点は階上地区の土地に設置されたトレーラーハウスです。こゝは「はしかみ交流広場」と名付けられ、地元の方々のコミュニ

事務局長の村上嘉子さんと副代表理事の小松治さん



ケースシヨンの場として活用されています。普段は九時〜十七時まで「なんでも相談」を実施し、健康のことや日常生活で困っていることなどの相談を保健師や看護師、社会福祉士のスタッフが対応しています。「介護保険や在宅医療についてだけではなく、ペットについてや家族についてまで様々な相談が入ります。必要に応じて専門機関や他の団体につないでいきますが、一番大事なことは話をしっかりと聞くことだと思っています。」と事務局長の村上嘉子さん。

また、仮設住宅のお茶会に参加し、血圧測定などの健康チャックや健康相談を行っています。音楽イベントや防災訓練、芋煮会などでも健康相談ブースを設置しています。気軽に健康相談をして病気の予防や早期発見をしていくことは、震災後、心身ともに疲れている地域住民にとって大切なことです。この他にも、集会場のない仮設住宅住民にはし

かみ交流広場を貸出したり、地域のサークル活動や様々な支援団体へ貸出すなど、サポートしています。



▲はしかみ交流広場

八月二十八日にオープンしてから二百人以上の方と接してきた村上さんは、「一言で生活支援と言っても幅が広いです。その時期その時期によっても支援は変わります

「一人ひとりの生活スタイルや震災からの立ち直り方も様々なので、一人ひとり丁寧に対応していくことを心がけています。」と話しています。

「地域の方が何を求めているかということと、求めていることを支援しても良いか、ということを考えて活動しています。」と小松さん。今後は在宅被災者の方々の支援も行う予定です。

に、長期の地域的支援も行う予定です。

生活支援プロジェクトK

〒988-0234
気仙沼市長磯原ノ沢130-7
「はしかみ交流広場」
●TEL/090-4076-5071
●E-mail ssprojectk@yahoo.co.jp
●URL <http://blog.canpan.info/sspk>



▲はしかみ交流広場内で手仕事プロジェクト

III・IIから

動物たちに寄り添って

NPO法人アニマルクラブ石巻



宮城県石巻市に拠点を置くNPO法人アニマルクラブ石巻(以下アニマルクラブ)は、捨て犬や野良猫などの現状を多くの人に知ってもらい、助けを必要としている動物に関わっている人に協力し、幸せな再スタートが切れるように応援する活動を続けています。主には、里親探しの協力や、野良猫や犬の不妊・去勢手術の支援、動物たちの現状を知ってもらうためのパネル展などの活動をしてきました。

保護していた 犬猫は無事

三月十一日の発災時、代表の阿部智子さんは多賀城市民会館で十二、十三日と開催された「アニマルクラブの絵描き展」の準備中でした。動物たちを保護している石巻の阿部さん宅まで車で片道一時間の距離でしたが、余震が続き、避難する人たちの車があふれ、道路は浸水している場所もあり、途中から車をおりて徒歩で到着したのは五時間後のことでした。



▲代表の阿部智子さん

当時家には誰もおらず、六十五匹

の保護していた犬や猫だけがいきました。この地域にも津波が押し寄せ、外のフェンスが倒れ、ゲージに入っていた猫一匹と、外にいた犬二匹が亡くなっていました。家内部にも津波が押し寄せました。奇跡的にも波がゲージを下から押し上げる形になり、中の犬や猫はみんな無事でした。

アニマルクラブにはボランティアが十人程いましたが、被災したり、中には亡くなった方もあり、その上、ガソリンが不足した影響で活動の再開は、厳しい状況でした。

しかし、発災の翌日には、一階と外のフェンスにいたすべての動物たちを二階へ移し、避難させました。ボランティアも自転車やバイクで駆けつけてくれました。そして、津波で備蓄していた動物用餌やペットのトイレ用品も流され、被災した動物が保護され始めたことから、救援の手が必要となりました。

石巻も震災直後から電話やネット回線などの通信手段が途絶え、現状を発信することができない状況でした。そんな中、市役所や警察、消防、自衛隊といった無線をもつ機関に足を運び、情報を発信してもらったため動き出しました。その四日後には、新潟経由で支援物資が届けられました。

携帯電話が復旧した後、三月二十五日から仙台圏に住む協力者にアニマルクラブのホームページへの掲載を依頼し、保護した動物を紹介。ホームページ上で里親募集を開始し、これまで三十匹程の動物たちをつなげられました。現在も、ボランティア五、六人が交代しながら動物たちの面倒をみています。

人に対しても、 動物に対しても

獣医の方々に協力を得て、二〇〇八年から週に数回「不妊・予防センター」を開設し、不妊・去勢手術やできる範囲内での治療も行ってきました。しかし、センターの地盤が沈み、建物が斜めに傾いたため、五月二十三日からイオン石巻ショッピングセンター内のワイワイペットクリニックに場所を移し、事業を本格的に再開しています。

再開の二週間前から、動物たちの里親になってくれた方、以前にセンターを利用した方へ安否確認も兼ねて電話やハガキで移動再開の案内を送りました。すると、発災時は仕事場においてそのまま避難したため、飼い犬や猫と出会えない家族が多かったことや、津波で流されたとしても、せめて遺体に会いたいという声を多く聞きました。そこで、捜す飼い主と言葉を話せないペットをつなぐ「命綱」になるマイクロチップ(注)を付ける活動を始めることにしました。通常は五、六千円かかるチップの埋め込みですが、三菱商事の復興支援助成金を受けて、九月からは登録料千円の自己負担で埋め込みができます。現在、この装着に協力してくれる病院は、宮城県内に十二か所あります。



▲アニマルクラブ石巻「マイクロチップがかります」

同時に、被災した動物を保護した方への相談も行っています。動物たちを保護できるスペースやスタッフの人手も足りないため、できる限り保護した方に飼っていただき、その過程で疑問が出てきた時に対応するためです。「被災した動物を保護してくれた人の気持ちを生かしたい。人に対しても、動物に対してもできることを継続していきたいです。被災した動物たちが殺処分になる保健所という最終地点にたどりつくことを減らしたいですね」と代表の阿部さん。

弱者である動物たちに寄り添った活動を続けるとともに、震災を通じて人と動物の関係性を見直し、多くの動物が幸せに生きていくために現状を発信し続けていきます。

(注)マイクロチップ：直径三ミリ、長さ十三ミリの動物用体内植え込み型の標識。首輪や迷子札とは違い、脱落や消失といったおそれがない。それぞれのチップに個々の番号が記録されており、迷子になった場合にはデータベースから情報を照合し飼い主のもとへ戻ってくる確率が高まる。

**NPO法人
アニマルクラブ石巻**

- TEL・FAX/0225-23-2680
- E-mail animalclub30@gmail.com
(件名に「アニマルクラブ石巻」と記載ください)
- URL <http://a-c.sub.jp/index2.html>



仙台市の中でも大津波により甚大な被害を受けた仙台市若林区で活動するNPO法人あかねグループは、日々生活する地域で、誰もが気軽に参加できるボランティア活動の場を提供することや、お互いの助け合いの心により高齢者が在宅でより生き甲斐の持てる暮らしを実現できるよう、十人の女性により、昭和五十七年に任意団体として誕生しました。現在は、仙台市若林区を中心に配食や介護、ファミリーサポートなどの事業を行っています。平成十五年からは仙台市から受託した配食サービスも開始し、現在百五十食余りの手作りのお弁当を毎日高齢者に届けています。

あかね弁当を待つ人へ

三月十一日、宅配するお弁当を作り終え配達の前準備に取り掛かろうとしていたその時、大震災は起こりました。厨房にいた七人のスタッフが、ちょうど作り終えたばかりのお弁当が置かれた作業台の周りで、誰一人外へ逃げることなく揺れが収まるまでお弁当が落ちないよう両手を広げ必死に押さえました。「何とか守ったお弁当。あかねのお弁当を待っていてくれる人たちに届け

NPO法人あかねグループ

るのは、当然の事」というスタッフの気持ちは皆同じでした。電気もガスも使えなくなりましたが、数個崩れてしまったお弁当の不足分をみんなの知恵で作って直し、車、自転車、徒歩といった配食ボランティアにスタッフも加わり配達に向かいました。

配食サービスの役割は、バランスの良い食事を届けること、安否確認です。いつも暖かいお弁当と共に明るい笑顔や心の安らぎを届けています。この日は利用者となかなか連絡が取れず心配は募りましたが、やっと会えた時、「無事でよかった」ありがと。何にも食べるものがなかったんだよ」と抱き合い涙する利用者さんも。津波が来るという報道で沿岸に近い地域に行くことは出来ませんでした。避難途中で偶然会えたという幸運もあり、震災直後に関わらず約百二十食のお弁当を手渡す事が出来ました。

炊出し



翌日、スタッフが集まり決めたことは、一週間は何とか食べられるものを利用

者さんに届けようということでした。その決意は、地域に根差した活動を目指すあかねグループの使命感からでした。幸いなことにお米はあ



▲ 代表の武田さん(左)と清水さん(右)

るので一斗缶でご飯を炊き、おにぎりの中の具を工夫し、ガソリンが手に入らないため、徒歩や遠くは二十キロの道のりを自転車で行きました。また、豚汁を作り、地域の方々にも提供することが出来ました。

「無から知恵と心で形に出来ました」と代表の武田美江子さん。その後、普段からのネットワークもあり、全国から食料の支援が届き始めました。そして、ガスが復旧した四月十六日からは通常のお弁当を配達できるようになりました。

支援弁当で交流を

「全国から暖かいご支援をいただき心から感謝しています。その恩返しはやはり、被災した方への支援だと考えました。そして私たちに出来ることはお弁当を届けることなのです。」という武田さん。避難所から仮設住宅に移った方々がなかなかバランスの良い食事の出来ない現状やコミュニケーションが取りにくい環境であることを知り、皆さんにお弁当を食べていただくことで少しでも役に立ちたいと考え、仮設住宅へのお弁当配達支援を始めました。

バランスの良い手作り弁当は、「美味しいお弁当ありがと」「嬉しい」と

とても好評です。現在まで、若林区を中心に太白区や県南の山元町にもお弁当を届けました。仮設住宅への支援弁当は、出来る限り続けていきたいとあかねグループは考えています。

今回の大震災を経験して、横に繋がるネットワークの重要性を再確認しました。一人の方を見る時に、いろいろな角度からそれぞれが出来ることを支援し、補い合う。日頃から地域でそのネットワークを作ることが必要なのです。



▲ 自転車でお弁当を届ける

あかねグループの誕生日は二月。毎年開く誕生会も来年の二月で三十回目を迎えます。誕生会ではスタッフそれぞれが夢を話しますが、「嬉しいや、母のぬくもり あかね井」という事務所の額が表すように、母の温もりが感じられるような皆が住みやすい地域を作るとい夢は、震災後より強いものとなりました。

NPO法人 あかねグループ

〒984-0823
 仙台市若林区遠見塚1-5-35
 ●TEL/022-285-0945
 ●FAX/022-282-4788
 ●e-mail npoakane@violin.ocn.ne.jp
 ●URL http://www9.ocn.ne.jp/~akane-g/

▼事務局長の若山陽子さん



名取市を中心に、海外出身の移住者や滞在者へのサポート活動、日本語教室の運営、市民との交流事業などを行っている国際交流協会ともだちin名取会長 相沢喜美さんは、震災の五日目から地元名取市で被災者支援の活動を始めました。「これまで主にマイノリティ(社会的少数派)への支援を行ってきました。被災者も社会全体からみたら、マイノリティですから自然と自分たちに行ける支援をしないと、動き出しました」と事務局長の若山陽子さん。「私たちに手伝えることは何でもします」と、市役所の担当課に申し出て、名取市立第一、第二中学校の避難所でボランティアのコーディネートや、物資の仕分けなど、運営のサポートを担いました。

ともだちin名取のメンバーは、毎日欠かさず避難所に通いつづけ、何度も顔を合わせるうちに、次第に被災者の方々も心を開き、家族や家を失った悲しみ、働く場の無くなった不安などを話そうになつてきました。若山さんたちは時には共に悲しみ、共に涙しながら、傾聴をつづけてきました。

「避難所での支

名取地域の被災者支援をつづける

国際交流協会ともだちin名取

援は、辛いこともありましたが、「ありがとう」とこんなになくさん言われたことは今までありませんでした。その言葉を支えに、続けられたと思います」。避難所での三か月の間に、被災者とは家族のような心の繋がりができ、それぞれが仮設住宅に引越す際には「まるで娘を嫁に出す、母親のような気持ち」で、送り出しました。

さまざまなかたちで仮設住宅をサポート

被災者が仮設住宅に暮らすし始める、さまざま不便が見えてきました。そこで、名取市内で支援に動いている他の団体や企業などと協力しながら、仮設住宅に暮らす人たち向けに支援事業を行うことにしました。

まず、仮設住宅に暮らす方は孤独になりがちなので、名取市内の各集会所で「お茶っこ飲み会」を西本願寺東北教区災害ボランティアセンターや自治会などと協力して、実施。この会は参加した方にお茶やお菓子を出し、歌を歌ったり話しをしながら、その地域及び仮設住宅内のコミュニケーション作りのお手伝いをすることで、足湯やマッサージ・散髪などのサービスや子ども対象のイベントなどを行うこともあります。現在も毎週

行っています。

これまでに、礼服がない被災者のために県外の団体などと繋いで礼服を提供し、多くの方に感謝されました。そのほかにも、企業からの提供を受けて、衣料品お楽しみバザー(無料で衣料品を買いもの形式で提供)を開催したほか、支援を希望する個人や団体、企業など被災者を繋ぎ、出張居酒屋、仮設住宅をアートとデザインでより良い生活環境にするプロジェクトなどへの協力など、さまざまなかたちで支援をつづけています。

状況に合わせた支援をつづけている

支援活動を続ける中で、行政からの委託も受けるようになってきました。そのひとつが「応急仮設住宅周辺環境調査」です。これは宮城県全域を五つの地域に分け、応急仮設住宅団地内のコミュニケーション形成や、周辺の生活環境についての調査にあたるもので、ともだちin名取は仙南地域を担当しています。調査には二名の調査員を被災者の中から雇用し、若山さんと共に聞き取り調査などを行っています。調査は二月まで行われる予定です。

また県では備蓄の支援物資を被災者に届けるため、民間の支援団体に物資の配布を委託していますが、仙南地域はともだちin名取が担い、夏から名取



▲大勢で賑わうお茶っこ飲み会

市関上の上町集会所で開いている、開上まちカフェで毎週水曜日、配布しています。これは民間のアパートの借り上げ住宅で生活する人々には、支援物資がなかなか行き届いてないことから、開上まちカフェを会場に、民間に暮らす被災者を対象に生活用品などを配布しているのです。毎回名取市だけにとどまらず、仙南地域から百五十人以上の人が訪れ、好評を得ています。



▲企業と協働で無料衣料品バザーを開催

「現在、仮設住宅以外に暮らす被災者への行政の支援が薄く、今後そちらへの支援も力を入れて行きたいと考えています。また仮設住宅に暮らす皆さんへは、一方的な支援から、自立支援、双方向の活動を考える時期にきていると思います。自立へのサポートとなる支援を今後おこなっていきたいと思います」

国際交流協会ともだちin名取

〒981-1245
名取市ゆりが丘1-13-7
●E-mail tomodachi_in_natori@yahoo.co.jp
●URL http://blog.canpan.info/tomo_in_natori/

ジオラマ制作で心のケア
 ～三月十日の
 関上の町をもう一度～
 NPO法人地球のステージ

地球のステージは一九九六年に活動を始め二〇〇二年にNPO法人として独立。災害時の緊急医療支援、東ティモールでの保健医療事業、パレスチナなどの紛争地や地震等の被災地で心に傷を負った人への心のケアを中心として支援活動を展開しています。また、国内では国際理解教育の一つとして地球のステージという公演活動を行って来ます。この活動は、精神科医を務める代表理事の桑山紀彦さんの海外での出会いや支援活動の実体験を元につくられています。海外での支援活動を語り映像と音楽という二つの表現方法をシンクロナイズして公演しています。これまで二千五百回以上の公演を全国で行い、その公演料は、また海外での支援活動に使われるという形をとっています。

三・一一地震発生時

法人の事務所がある名取市下増田は、三月十一日の津波で道路が二十センチほど冠水しましたが、幸い難を逃れました。しかし、歩いて三分の川向こうの田んぼの中には流された車が多くあり、事務所の一階にある桑山さんが院長を務める東北国際クリニックでは、震災翌日から二ヶ月間、二十四時間体制で診療に

宗貞研さんとスタッフの林由美さん



くれました。

あたりました。発災後一週間のうちに、公益社団法人日本国際民間協力会NICCOや認定NPO法人シェア等の医師や看護師が支援にきて

館腰小学校に避難している子どもたちの中から「思いっきり遊ぶ場所がない。」という声を聞き、三月二十五日にはサッカー大会を開催しました。館腰小学校に避難している関上地区の子どもたちのほとんどが家を失っています。肉親を失っている子どもたちもいます。このサッカー大会は身体を動かしながら、喜びや苦しみを自分の感情として表現していく心のケアの取り組みの一つです。子どもたちができるだけ自分らしさを発揮する場を作ることがとても重要になります。

心のケアで被害を乗り越え
 更なる自身の構築を

名取市教育委員会と話し合い、震災から三ヶ月が過ぎようとする六月二日から

ら名取市関上小学校、中学校の仮校舎となっている不二が丘小学校で、小中学生を対象とした心のケアのワークショップ「スカイルーム」を始めることになりました。ワークショップでは、写真や絵などを通して感じたことを表現することから始めます。「寝た子を起こすな。せつかく忘れかけているのだから、そっとしておけ。」というのは間違いであり、将来にわたって心を苦しめ続けることとなります。ちゃんと語って、自分の物語にしてそれを葬り去ることが大切です。」と桑山さんは言います。重要なことは三月十一日の出来事などを整理していくことです。NICCOから派遣されスカイルームを担当している心理カウンセラーの宗貞研さんは「三月十一日の出来事について、話をしたり表現することで、PTSD(心的外傷後ストレス障害)の予防につながります。」と言います。現在は仮設住宅や事務所内など五か所を拠点として関上小学校、下増田小学校、増田小学校の児童約五十人に対し心のケアを行っています。



▲桑山さんとワークショップの活動風景

失った街を再現し
 新たな一歩を

十月からは三月十日の街のジオラマ(注)制作に取り組んでいます。津波前の街はどうだったのか、突如津波により失った街を制作していくことで、心の不全感を解消し感情を表現していきます。自由に制作していいというルールにより、子どもたちは自分が何を大切に

していたかを知ります。自宅、ラーメン屋さん、関上小学校など思い入れが強かった建物を見事に様々な感性で表現します。そうしていく中で、時間と感情と意思を取り戻して新たな一歩を踏み出していきます。制作した関上の街は十二月初旬に名取市役所で、来年の二月にはイオンモール名取エアリで展示される予定です。

心のケアは継続的な取り組みとなる為、地元の団体が行うことにより安心して利用できます。PTSDの予防から、被害を乗り越えさらなる自信の構築をすることを目指すことを目的として活動をを行う地球のステージの「スカイルーム」は、今後も継続的に必要な支援に取り組んでいきます。



▲関上の街のジオラマ制作

NPO法人 地球のステージ

〒981-1217
 宮城県名取市美田園7丁目17-3
 ●TEL/022-738-9220
 ●FAX/022-383-8330
 ●URL <http://www.e-stageone.org>

(注)ジオラマとは情景模型のことであり、展示物とその周辺環境、背景を立体的に表現する方法。

放送を通じて
情報と町民をつなぐ
りんごラジオ

宮城県山元町は県内有数の果物の生産地で、海岸沿いにはイチゴハウス、山沿いにはりんご農園が広がっています。しかし、三・一一の東日本大震災で震度六強の地震と津波が襲い、沿岸部は大きな被害を受け、山元町民六百四十人の死者を出しました。

災害臨時FMを開局

山元町の広報車は乗っていたスタッフもろとも津波に流されました。防災無線も使えず、地元の町民に情報を伝える手段がなくなりました。そこで、町も住民も情報の発信が必要と考え、元アナウンサーで、終の棲家として山元町に移り住んで八年が経つ高橋厚さんを中心として、災害臨時FM放送局「りんごラジオ」を立ち上げました。りんごラジオの由来は、山元町の特産であるりんごで、戦後の日本人を元気づけた「りんごの唄」に思いを込めて名付けられました。

放送に使用する機材やCDなどは、高橋さんの知り合いがいるエフエムなおか（新潟県）から借り、運営には、地元住民の方がボランティアとして関わり、震災から十日後の三月二十一日、山元町の町役場二階で放送を開始しました。

りんごラジオは、毎日朝七時から夜七時半まで生放送。町内の被害状況や安否情報、医療情報など被災者・避難者・町外の方にタイムリーな情報を届けたほか、町長や副町長、教育長が日替わりで毎日出演して町民に話しかけました。

「放送する人間も同じ被災者です。被災者をクールに取材対象と見る様なことはせず、同じ目線で悲しみや怒り、嬉しさを共有できる放送となっていたと思います」と当時を振り返る高橋さん。

程なく、インターネットサイトのサイマルラジオ（注）を経由することで、山元町外に避難している人も試聴することができるようになりました。山元町を訪れた外国のボランティアも帰国後聞いているという声もあり、発信することの重要性を再認識しました。

五月を過ぎる頃から、落ち着きを取り戻していくなかで、震災の記憶を伝



▲高橋厚さん

えていこうと一日一回、地元の方から直接話を聞くいきなりインタビュコーナーを設けるなど、町民の出演を作っています。取材を通し、顔と顔を合わせることで身近な存在になり、時折放送局を訪れてくれる方も増えました。

七月十四日には、山元町仮庁舎の完成に伴って、スタジオも中央公民館前に建てたプレハブに移転。夏休みには、地元の声をもっと発信するため、期間限定で「夏休みりんご」と題し、山元町の小学生が主体となって、インタビューや童話の音読を行う時間をつくりました。（冬休みにも実施予定）



▲放送準備中の「りんごラジオ」内部

町のラジオとして

六月の町議会で、りんごラジオの公設民営化が決定し、十月五日からは、町の臨時職員として四人が採用され、現在は以前からのボランティアと共に六七人で運営しています。

▼山元町災害臨時FM「りんごラジオ」



「以前からりんごラジオを聞いていました。震災後、情報を得る手段はラジオしかありません。自分も関わって何かできないかと考えて応募しました。」と臨時職員の阿部忠男さん。放送に携わって約一か月。放送のいろはについて、もっと勉強しながら町民のみなさんにより多くの情報をつなぎ、町外の方々にも現状を知ってもらいたい、思いを語ってくれました。

「町のラジオなのだから、町職員のみなさんや、地元住民の皆さんにもっともつと関わってほしいですね。そして聴かれるラジオになるよう企画を練っていかなければと高橋さん。

震災から九ヶ月が過ぎ、町民へタイムリーな情報を届けてきた山元町災害臨時FM「りんごラジオ」。今後、常設のコミュニティFM局にむけて新たな取組みが期待されます。

（注）サイマルラジオ…コミュニティFMや臨時FMの自主制作番組をネット配信するサイト、およびそのためのプロジェクト。

山元町災害臨時FM放送局
「りんごラジオ」

- TEL/090-6786-9595
- E-mail ringoradio@gmail.com
- URL <http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/jishin/radio.html>

みやぎNPOプラザ開館10周年記念 NPOフォーラム開催 ～NPOの過去、現在、未来を見据えた一日～



パネルトーク
「みやぎのNPO
～これまでの10年、
これからの10年」

メインイベントは、パネルトーク「みやぎのNPO」これまでの十年、これからの十年」。開館から十年を経て、NPOの活動を取り巻く環境の変化や市民意識、活動上での

これまでの十年、 これからの十年、 四つの視点から

平成十三年四月にみやぎNPOプラザが開館し、今年で十周年を迎えました。これを記念し、十一月十九日(土)「みやぎNPOプラザ開館十周年記念NPOフォーラム(以下フォーラム)」が開催されました。十時三十分～十九時まで行われたフォーラムは、みやぎNPOプラザの十年に深く関わってきた方々から、これからNPOに関わっていくという一般市民の方々まで、多種多様な方々が参加され、大いに盛り上がり

復興に向けた活動を トークや歌で紹介

午前中の「NPOのソーシャ

課題などを振り返り、これから十年を見据えて、NPOに求められる役割やそれに向けての支援策などを、NPOセクターに関わる四名のパネラーの方々に、それぞれの視点からお話をいただきました。

前半の「これまでの十年」では、NPOセクターのこの十年の展開を、全国的な視点から認定NPO法人日本NPOセンター代表理事の山岡義典さんにお話し頂き、宮城県域を視野に都市部から見えてきた視点で、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター代表理事の大滝精一さんから、地域の視点から、石巻圏域で市民活動を支援してきた、NPO法人いしのまきNPOセンター理事の木村正樹さんから、それぞれお話し頂き、対して、行政の立場で、NPOと行政の協働を進めてきた、登米市長の布施孝尚さんからお話いただきました。後半には、「これからの十年」を見据えて、NPO法の改正により、目まぐるしく変化していくNPOの環境の中で、財政面や人材育成などの組織基盤の強化、震災復興においても、大きな担い手として期待が求められていくという点、パネラーの共通の思いでした。

ルビジネス事例発表会」は、登米市、大崎市、山元町のNPOより震災後の活動を含めたビジネスプランを発表し、午後からは「三・一一宮城のNPOはどう動いたか」で、震災後いち早く避難者の救援活動を展開し、現在も復興に向けた活動を続けている三つのNPOからの報告も行われました。

続いて開催したメインイベントのパネルトークの後は、東松島市で被災し、団体再建にむけて日夜奮闘中のNPO法人創る村からの歌のプレゼンがあり、六十名もの参加者があった交流会で親交を深め、盛りだくさんのNPOフォーラムが終了しました。

みやぎNPOプラザでは、今まで培った情報発信のツールや、全県で活動してきた各地域とのつながりを生かし、さらに宮城県のNPO・市民活動団体へのサポートに、力を入れていかなければならないと、気持ちを新たにしたい一日でした。



NPO法人創る村の
オペレッタ
「早くおいでよ
サンタクロース」

● NPO法人の設立を新しく申請した団体		2011年10月11日～11月10日申請分	
団体名	所在地	活動内容	受理日
やまぶき創造塾	白石市	やまぶきの植栽や苗の無償配布等による地域社会の活性化等	10/13
とめタウンネット	登米市	地域社会や社会教育、生涯学習、子ども達の育成等の健全な発展と中間支援組織としての支援事業等	10/26
宮城県くらしの共生福祉互助会	巨理郡巨理町	障害者の自立のための住居確保や交流、授産施設に関する事業等	10/31
JETO(ジェット)みやぎ	仙台市宮城野区	東日本大震災による震災孤児に対する給付金事業及び支援活動等	11/2
● NPO法人に認証された団体		2011年10月11日～11月10日まで	
団体名	所在地	活動内容	認証日
ゆにふりみやぎ	仙台市青葉区	バリアフリーの情報発信、調査研究事業等	10/11
気仙沼復興商店街	気仙沼市	商店街復興事業、地域活性化事業等	10/26
Miyagi International Support Organisation(MISO)	塩竈市	東日本大震災によって被害を受けた在日外国人に対する支援及び災害救援事業等	10/31

宮城県の
NPO法人数

602 団体

2011年11月10日
現在数

※解散、所轄庁変更、
認証取消、撤回した
団体を除く。

●みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。

みやぎNPO情報ネット

<http://www.miyagi-npo.gr.jp>

みやぎNPOプラザ

〒983-0851
仙台市宮城野区榎ヶ岡5

TEL:022-256-0505 FAX:022-256-0533

E-mail:npo@miyagi-npo.gr.jp

平成24年度 助成事業 募集要項

【障がい者給料増額支援助成金】

A) レベルアップ助成金

- 助成対象: 給料増額のモデルケースとして、より本格的なしくみを取り入れた事業の立ち上げ
- 応募要件: 1) 平均工賃一人当たり既に月額2万円以上支給していること
2) 助成対象が400万円以上に対応する事業であること
- 助成金額: 上限500万円(最大10件)

B) ステップアップ助成金

- 対象団体: 全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所
- 助成対象: 更により多くの給料を支払うための事業の開始、設備の導入など
- 応募要件: 平均工賃一人当たり月額12,700円以上支給(昨年度実績)
- 助成金額: 上限100万円(最大50件)

C) スタートアップ助成金

- 対象団体: 障がい者の所得保障に取り組んでいる地域活動支援センター、無認可小規模作業所、生活介護事業所
- 助成対象: 給料増額に結び付く設備の導入
- 応募要件: 平均工賃一人当たり月額5,000円以上支給(昨年度実績)
- 助成金額: 上限100万円(最大10件)

【障がい者福祉助成金】

- 助成対象: 1) 会議、講演会、研修事業に対する助成
2) 出版、啓発活動に対する助成
3) 調査、研究、スポーツ、文化活動に対する助成
- 助成金額: 上限100万円(総額1,000万円)

【共通事項】

- 助成期間: 平成25年3月15日までに完了する事業
- 募集締切: 12月31日(土) 消印有効
- 連絡先: 公益財団法人 ヤマト福祉財団(福祉金事務局)
〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-15
TEL: 03-3248-0691

東日本大震災現地NPO応援基金 第2期

- 助成対象: 被災者の生活再建を支援する現地の組織基盤強化の取り組み(NPOの人的基盤、財政的基盤、情報基盤など運営基盤の整備)に必要な人件費等を資金支援
- 対象団体: 1) 岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」
2) 上記(1)の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」
- 助成金額: 1件当たり500万円以内(1回の選考での助成総額は概ね2,500万円)
- 助成期間: 応募日に応じて、1月、4月、7月、10月初日から1年間以内
- 募集締切: 11月1日(火)~2012年8月31日(金)までの期間、随時受付
- 連絡先: (特活)市民社会創造ファンド
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル267-B
TEL: 03-3510-1221
E-mail: ksakamoto@civiltfund.org

積水ハウスマッチングプログラム 2012年度助成

- 基金の種類: 「積水ハウスこども基金」
次世代を担うこどもたちを育成することを目的とし、こどもたちの健全な育成に関わる活動を支援「積水ハウス環境基金」
サステナブル社会の構築に寄与することを目的とし、環境や生態系の保全に考慮した活動を支援
- 助成の種類: A) プログラム助成
申請プログラムに対して助成
B) 基盤助成
団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの用途への助成

- 助成金額: A) 過去3年間の平均年間支出合計の30%以内または200万円のいずれか低い金額が上限
B) 上限20万円
- 募集締切: 12月22日(木) 17:00必着
- 連絡先: 積水ハウスマッチングプログラムの会 事務局
〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-88
梅田スカイビルタワーイースト
TEL: 06-6440-3440 FAX: 06-6440-3369
E-mail: sh-mat@sekisuihouse.co.jp

平成23年度 東日本大震災復興支援補助 第2次募集

- 助成対象: (1) 被災地域・被災者受入地域における支援拠点づくり活動
(2) 被災地域・被災者受入地域における高齢者・児童・障害者等を対象とした生活支援活動
(3) 被災地域の記録、調査活動
(4) 被災者や被災地域が行う復興活動
- 対象団体: 所定の要件を満たすNPO法人、学校法人、社会福祉法人、更生保護法人、財団法人、社団法人、その他公益的な法人および大学に所属する研究者
- 助成金額: 1事業300万円以内(総額1億円)
- 募集締切: (第1回)12月19日(月) (第2回)1月31日(火)
※補助金交付決定金額が予算総額に達するまでの間
- 連絡先: 財団法人JKA 補助事業グループ
公益・福祉復興チーム
〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6
FAX: 03-3512-1277
E-mail: fukkou23-2yodo@keirin-autorace.or.jp

こ〜ぶほっとわ〜く基金 福祉活動・研究助成

- 助成対象: 高齢者・障がい者・児童の生活支援活動、住みよい社会を作るための調査・研究活動、交流集会・研究会・シンポジウムの開催等の非営利活動
その他、上記の目的を達成するために必要な事業
- 対象団体: 宮城県内で活動する非営利の団体・個人
- 助成金額: 原則として上限30万円
※これまで3回の助成を受けている場合は対象外
講演会・フォーラム・演奏会などの開催に対しては、全国規模10万円・宮城県内規模5万円をめぐり助成
- 募集締切: 1月20日(金) 消印有効
- 連絡先: こ〜ぶほっとわ〜く基金事務局
〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2
みやぎ生協文化会館ウィズ1階
みやぎ生活協同組合 生活文化部福祉・文化活動事務局
こ〜ぶほっとわ〜く基金係
TEL: 022-218-5331 FAX: 022-218-5945
E-mail: sn.mfukushinet@todock.jp

平成24年度 地域の伝統文化保存維持費用助成

- 助成対象: 地域の民俗芸能・技術の継承のための諸活動、とくに後継者育成に必要な技能修得のための諸活動
- 対象団体: 上記諸活動に努力をしている個人または団体
※助成を希望される民俗芸能・民俗技術の理解者、支援者からの推薦が必要です。
- 助成金額: 民俗芸能への助成: 1件につき上限70万円
民俗技術への助成: 1件につき上限40万円
- 募集締切: 1月27日(金) 消印有効
- 連絡先: 財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-9-1
明治安田生命新宿ビル
TEL: 03-3349-6194 FAX: 03-3345-6388

- 申込方法:下記申込先まで、氏名、電話番号、参加希望の分科会を明記の上、FAX、メールにて申込
- 申込先:心のネットワークみやぎ大会2011事務局
FAX:022-375-4551
E-mail:qqw59pc9k@star.ocn.ne.jp
- 主催:精神障害者自助グループ
「心のネットワークみやぎ」
- 連絡先:〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘4-24-23-203
(佐川美紀方) TEL:080-3140-7698

12/18 健康管理の簡単な考え方・進め方

- 日時:12月18日(日) 13:30~14:50
※講座終了後、太極柔力球の体験講習を行います。
- 場所:みやぎNPOプラザ 第2会議室
(仙台市宮城野区榴ヶ岡5)
- 講師:小林晴氏(健康管理士)
- 対象:健康づくりに関心のある方、老若男女を問わずどなたでも
- 参加費:300円
- 主催:(特活)宮城県健康管理士会
- 連絡先:(代表)太田 TEL:022-281-2388
FAX:022-281-0827

12/19 東日本大震災チャリティ講演会 「希望と勇気を分かち合う」

「世の中にたった一人しかいない自分の生き方にこだわること」「二度とやってこない一瞬一瞬を精一杯生きること」を信条に持ち、地雷で被害を受けたカンボジアの子ども達を支援するNPO法人を設立した有森裕子氏をお迎えしての講演会です。

- 日時:12月19日(月) 18:30~(開場18:00)
- 場所:仙台国際センター 大ホール
- 講師:有森裕子氏((特活)ハート・オブ・ゴールド代表理事/オリンピック女子マラソンメダリスト)
- 参加費:一般2,000円、学生500円(数に限りがあります)
- 主催:仙台Iゾンタクラブ
- 連絡先:TEL/FAX:022-296-0192

12/23 クリスマスファミリーコンサート ~笑い越え~

多くの方と一緒にたのしいひとときを過ごしたい!という思いで開催するコンサートです。今年、震災のこともあり、笑って年を越す。嫌な思い出を乗り越えるという意味で、サブタイトルが「笑い越え」となっております。

- 日時:12月23日(金・祝) 14:00~(13:15開場)
- 場所:のびすく泉中央4階(仙台市泉区泉中央1-8-6)
- 対象:親子、保育士、学生、老若男女どなたでも
- 定員:200名
- 参加費:無料
- 主催:そらとぶクレヨン
- 連絡先:〒984-0838 仙台市若林区上飯田1-21-29
TEL/FAX:022-282-5351
E-mail:soratobu_crayon@yahoo.co.jp
URL:http://www.geocities.jp/soratobu_crayon/

12/23 1/6 1/8 祝 金 日 ふゆの、おやこで、いご!

参加者どうして碁を打ったり、交流したりして楽しく過ごします。碁を覚えたい人にはスタッフが教えてくれるので、すぐに碁が打てます。毎回、参加者にはプレゼントがつけます!

- 日時:12月23日(金・祝)、1月6日(金)、1月8日(日)
各回13:20~15:30
- 場所:エル・パーク仙台 こどもの部屋
(仙台市青葉区一番町4-11-1 三越定禅寺館5F)
- 対象:碁を覚えたい人や楽しみたい人
- 参加費:無料
- 申込方法:下記連絡先まで申込
- 主催:碁ランティア
- 連絡先:(担当)菊川 TEL:090-2888-8463
E-mail:kiku714@softbank.ne.jp

1/1 元旦カヌー初漕ぎ&芋煮会

新しい年を、カヌーで始めませんか?
地域の自然を体で学び、四季の変化を感じましょう。

- 日時:平成24年1月1日(日)9:30~13:00
- 集合場所:北上運河石井閘門前の河原
- 内容:石井閘門~石巻線のガードまで(約300m)
カヌー体験、その後、芋煮会
- 参加料:無料
- 持ち物:着替え、タオル、軍手
- 申込方法:電話、FAXにて下記の連絡先へ申込
- 問合せ:NPO法人ひたかみ水の里
TEL/FAX:0225-96-6870(事務所)
携帯:090-3364-7433 (新井)

1/8 震災復興手話チャリティイベント デフ・ウィンターフェスティバルinSENDAI vol.2

全国や地元東北のデフアーティスト&手話パフォーマーが震災復興イベントにかけつけてくれます。手話落語、マジック、手話歌、ヒップホップなど内容も盛りだくさんです。皆で笑顔になりましょう!

- 日時:1月8日(日) 13:00~17:00(開場12:30)
- 場所:仙台市市民活動サポートセンターB1
市民活動シアター(仙台市青葉区一番町4-1-3)
- 定員:150名(先着申込順)
- 参加費:大人1,500円/高校・専門・大学生1,000円/
小・中学生500円/小学生以下無料
※1ドリンク付き、ただし小学生以下を除く
- 申込方法:FAX、メールにて申込
- 主催:デフ・ウィンターフェスティバルinSENDAI vol.2 実行委員会
みやぎ手話工房フロムハート
- 協力:リ・スマイルプロジェクト
- 連絡先:デフ・ウィンターフェスティバル
inSENDAI vol.2 実行委員会
〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷2-1 第一市営1棟313号
みやぎ手話工房フロムハート事務所内
FAX:022-251-6189
E-mail:deaf-mute-masakari@r5.dion.ne.jp

- 参加費:500円(割引等も有ります。詳しくはお問合せ下さい)
- 持ち物:筆記用具
- 託児:500円(要申込・先着順)
対象:1才~未就学児 定員:7名
- 申込方法:氏名(読み仮名)、電話・FAX番号、メールアドレスを明記の上、下記まで申込
(託児希望の方は、お子さんの名前と読み仮名、年齢、性別)
TEL:070-5017-4389 FAX:022-258-7540(田中)
E-mail:capmiyagi@yahoo.co.jp、
starp parenting_miyagi@yahoo.co.jp
- 主催:CAPみやぎ
- 連絡先:〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2
みやぎいのちと人権リソースセンター2階
TEL:022-295-0882 FAX:022-295-0882
E-mail:capmiyagi@yahoo.co.jp
URL:http://www.cap-miyagi.com

12/13 ▶ **12/18**
火 ▶ **日** **第2回バリアフリーつくろい塾**
～縫い物で皆と元気に作品展～

- 日時:12月13日(火)~12月18日(日)10:00~18:00
- 場所:東北電力グリーンプラザ プラザギャラリーNORTH
- 申込方法:下記連絡先まで問合せ
- 主催:ユニバーサルファッション工房繕
- 連絡先:TEL:090-9037-5556

12/15
木 **NPOのための会計・税務相談**

日々の会計業務から決算書作成や税金のことなど、NPO会計に詳しい税理士が、ご相談をお受けします。

- 日時:12月15日(木) 13:00~17:00
- 場所:みやぎNPOプラザ
- 定員:3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間
- 主催:宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先:みやぎNPOプラザ(連絡先はP6をご覧ください)

12/17
土 **大切な人を亡くした方の**
「わかちあいの会」 in 仙台

【大人向けのプログラム】
ご遺族同士の今の気持ちや困ったことなど、ご遺族同士だから分かり合える気持ちなどをお話することができます。

- 日時:12月17日(土) 14:00~16:30
- 対象:大切な人を亡くされた方(死因は問いません)

【子どものためのワンデイプログラム】
大切な人をなくした子ども達があつまって、お話しをしたりゲームをしたり、楽しい時間をすごします。

- 日時:12月17日(土) 13:00~16:30
- 対象:親やきょうだい、大切な人を亡くした幼児~小中学生

【共通事項】

- 場所:仙台青葉学院短期大学(仙台市若林区五橋3-5-75)
- 参加費:無料
- 申込方法:下記連絡先まで問合せください
- 主催:仙台グリーンケア研究会
- 連絡先:TEL:080-3326-5612 FAX:022-369-8012
E-mail:griefoffice@gmail.com

12/17 ▶ **12/23**
土 ▶ **金** **さをり織り**
風百(かざもも)展

さをり織りは“差を織る”から来ており、教えることではなく生まれた時から一人一人に備わっている感性を引き出すという理念のもと、全国に広がっていきました。今回はさをり織りを“とらえられた、色とりどりの風”として展示致します。

- 日時:12月17日(土)~12月23日(金) 11:30~17:30
- 場所:Gallery叶蔵
- 入場料:無料
- 主催:(特活)黒川こころの応援団
- 連絡先:〒981-3621 黒川郡大和町吉岡字館下47
TEL:022-347-0028 携帯:070-5546-8669

12/17
土 **第10回MELON環境市民講座**
冬の渡り鳥を見に行こう!
～天然記念物・雁(ガン)のねぐら入り～

日本でも有数のラムサール条約登録湿地、化女川・伊豆沼・蕪栗沼。3つの沼を巡り、冬の水鳥を観察します。夕暮れの空にたくさんのマガンが飛来する「日本の風景」を観に行きませんか?

- 日時:12月17日(土) 10:00~19:00
※荒天時中止
- 集合:仙台駅西口大型バス駐車場に9:50
- 講師:呉地正行氏、池内俊雄氏(雁の里親友の会)
- 定員:20名(先着順)
※外での観察会で終了時刻が遅いため、小学生以下の参加はご遠慮下さい。
- 参加費:一般1,500円 MELON会員:1,000円
中学生割引:800円(会員の家族の場合500円)
- 申込方法:氏名(ふりがな)、性別、生年月日、電話番号・携帯番号、住所、MELON会員かどうかを明記の上、電話、FAX、メールにて申込
- 申込締切:12月14日(水)
- 主催:財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
- 連絡先:〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5階
TEL:022-276-5118 FAX:022-219-5713
E-mail:melon@miyagi.jpn.org
URL:http://www.melon.or.jp/melon

12/18
日 **「心のネットワークみやぎ」大会2011**
～社会の中の私～

仲間と共に大震災を乗り越え、あせらずに一歩一歩前進していきましょう!

- 日時:12月18日(日) 10:00~15:45(受付9:30~)
- 場所:仙台市市民活動サポートセンター
(仙台市青葉区一番町4-1-3)
- 内容:【第1部】午前
講演「退院後9年の軌跡」
講師:渡辺秀憲氏(心のネットワークみやぎ会員)
講演「サロンの立ち上げに当事者がかかわって」
講師:加藤孝吉氏(日本てんかん協会宮城県支部副代表)
【第2部】午後
分科会「(1)家族の中で思うこと」「(2)社会的入院」「(3)恋愛と結婚について」「(4)何でも語ろう!」
- 参加費:無料

スピーカー：陳言(王建鋼)氏
(日本企業(中国)研究院執行院長(中国))
徐興慶氏
(台湾大学日本語文学系所・人文社会高等
研究院教授(台湾))
趙容來氏
(国民日報編集委員(韓国))
草郷孝好氏
(関西大学社木学部教授(日本))
他、ディスカッサント多数

- 対象：どなたでも ※日本語を使用します
- 定員：200名(先着順)
- 参加費：無料
- 申込方法：下記連絡先まで申込
- 主催：独立行政法人国際交流基金
財団法人仙台国際交流協会
- 連絡先：独立行政法人国際交流基金
アジア・大洋州チーム
(12月10日公開シンポ係)
TEL:03-5369-6070 FAX:03-5369-6041
mail:yoyaku1210@jpf.go.jp

12/10 1/14 2/11 3/10 CILたすけっとサロン ウェルカフェ(WelCafe)再開

3.11の地震以降中止しておりましたが、11月より再開することになりました。
障がいを持たれた方々への情報提供や相談、交流ができる場として活用し、楽しい企画も考えています。楽しいひとときを一緒に過ごしましょう。

- 日時：12月10日、2012年1月14日、2月11日、3月10日
(全て土曜日)
※毎月第2土曜日の13:30～16:00に開催
- 場所：グッドライフ長町8階コミュニティルーム
(仙台市太白区長町1-6-3)
- 対象：障がいを持たれた方
- 主催：CILたすけっと
- 連絡先：〒982-0011 仙台市太白区長町1-6-1
TEL:022-248-6054 FAX:022-248-6016
E-mail:cil-tasuketto@k6.dion.ne.jp

12/10 ジェンダー論講座「人身売買とジェンダー ～女性・女児への性的搾取と差別の構造～」

女性や女児に対する性的搾取を目的とした人身売買は、途上国(貧困地域)から先進国(富裕地域)へと国境を越えて行われています。経済や権力の格差、受入国側の差別意識など、グローバルな視点で分析し、人身売買の構造的要因を探ります。

- 日時：12月10日(土)13:30～15:30
- 会場：エル・ソーラ仙台(アエルビル28階)
- 講師：中村文子氏
(東北大学国際高等研究教育機構法學研究科GCOE連携助教)
- 定員：50名(参加申込先着順)
- 参加費：500円(当日会場でお支払いください)
- 申込：申込受付開始11月7日(月)9:00より事務局に電話またはFAXで

- 託児：6ヶ月以上小学1年生まで(申込先着順)
託児利用料:子ども1人300円
※しょうがいのあるお子さんや上のお子さんについてもお相談ください
- 主催：財団法人せんだい男女共同参画財団
- 連絡先：仙台市男女共同参画推進センター
エル・ソーラ仙台管理事業係
TEL:022-268-8044 FAX:022-268-8045
URL:http://www.sendai-l.jp

12/11 仙台ピアカウンセリングの集い ～第3回仲間と共に癒しの時を持ちませんか!～

大震災で心が折れそうになっていませんか?自分は何も出来ないと感じていませんか?仲間と経験と力と希望を分かち合い、共に勇気を持って力強く新しい人生に出発しましょう!

- 日時：12月11日(日) 14:00～16:00
- 場所：仙台市福祉プラザ3階 託児室(仙台市青葉区五橋2-12-2)
- 内容：ひたすら体験を語り又聴くことを通して、精神疾患からの回復を目指す自助グループの集いです。
- 対象：精神障害当事者、健常者であっても今回の大地震で心が痛み悩んでいる方、及び家族に限定(タイプB型例会クローズ方式)
- 定員：10名(予約制)
- 参加費：無料
- 申込方法：下記連絡先まで電話またはメールにて申込
- 主催：仙台心のケア研究会
- 連絡先：TEL:080-3328-7186
E-mail:qqw59pc9k@star.ocn.ne.jp

12/13 NPOのための経営相談

事業計画を見直したい、何から手をつけていいかわからない...そんな時は外からの視点を取り入れてみませんか?経営コンサルタントが、マンツーマンでアドバイスします。

- 日時：12月13日(火) 13:00～17:00
- 場所：みやぎNPOプラザ
- 定員：3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間
- 主催：宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先：みやぎNPOプラザ(連絡先はP6をご覧ください)

12/13 スター・ペアレンティング講座2011 ～叩かず、甘やかさず 子育てする方法～

子育て、うまくいってますか?もし上手くいってなくても、それは親のせいでも子どものせいでもありません。そのやり方が子どもに合っていないということなのです。その子に一番良い方法を見つけていきましょう。

- 日時：12月13日(火) 10:00～12:00(開場9:45)
- 場所：仙台市福祉プラザ 第3研修室
- 内容：スター・ペアレンティングを使った自分の子育て法を考える
- 対象：関心のある方はどなたでも
- 定員：24名(申込み確定順:定員になり次第締切)

- ★熊が好んで生活する里山を取得し、伐採や開発から防ぐ
- ★熊が農地と宅地に出没するのを防ぐ緊急避難対策として、熊専用の畑をつくる
- ※一緒に活動するボランティアも募集しています。

- 活動場所: 柴田郡川崎町
- 会員募集: 【正会員】入会金10,000円/年会費3,000円
【賛助会員】入会金なし/年会費3,000円以上
- 主催: (特活)どんぐりの森
- 連絡先: TEL:050-3464-3527

ネットワークオレンジ サポーター募集中!

障がいがあっても、地域の中で「自分らしく・楽しく・安心して」暮らしてゆける環境の実現が私たちの目的です。これに賛同し、応援してくれるサポーターを募集しております。

イベントのお手伝いやボランティアの参加も大歓迎です。

- 種別: ★正会員(議決権を持って総会に出席し、会の運営に参加する)
★賛助会員(会を賛助し、応援する)
- 会費: 【個人サポーター】
Aコース 500円/月
Bコース 1,000円/月
Cコース 3,000円/月
【企業・団体サポーター】
Dコース 20,000円/年
Eコース 40,000円/年
- 主催: (特活)ネットワークオレンジ
- 連絡先: 〒988-0087 気仙沼市滝の入5-22 (アットホームオレンジ内)
TEL:0226-22-1669 FAX:0226-22-5521
E-mail: info@network-orange.jp
URL: http://blog.canpan.info/orange-orange/

イベント

毎週水曜 NPOのための 法人設立・団体運営相談

NPO法人の設立に関わることやNPOの運営について、お気軽にご相談ください。

- 日時: 毎週水曜日 13:00~17:00
- 場所: みやぎNPOプラザ
- 定員: 3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間。
- 主催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP6をご覧ください)

12/9 ▶ 12/14 デザインウィーク inせんだい2011

今回は「不屈・未来・デザイン」をテーマとして開催します。さまざまなデザイナーや企業・団体・学生等が復興へ力強く歩み続ける力を表現し、デザインの真価を発揮していきます。

- 開催期間: 12月9日(金)~12月14日(水)
- 場所: せんだいメディアテーク1階オープンスペース、5階展示スペース(仙台市青葉区春日町2-1)
- 内容: ★震災復興支援の取組展
★アジアとのデザイン・コラボレーション
★「こんな部屋いいな絵画コンテスト」作品展示
★講演: シンポジウム・パフォーマンスなど(予定)
- 主催: デザインウィークinせんだい実行委員会
- 連絡先: 〒980-8510 仙台市青葉区五橋2-12-1 アイリスオーヤマ(株)内
TEL:022-714-2725 FAX:022-217-3787
E-mail: dwks2011@dwks.info
URL: http://www.dwks.info/

12/9 12/15 女性支援者のための安全研修 ~「女性への暴力」を予防する! 身を守るスキルを習得する!~

自然災害がおこると、犯罪や暴力行為が増えます。被災地の女性と子ども、そして支援活動をする女性たちが、大切な自分を自分で守れるよう、危機回避のスキルを身につけましょう。

- 日時: 12月9日(金)、12月15日(木) 両日10:00~16:00
※いずれも同じ内容
- 場所: エル・ソーラ仙台 大研修室(アエル28階)
- 内容: NPOスタッフや行政職員等、被災地支援を行っている女性を対象とした、暴力から身を守るための「護身術」の研修
- 対象: 行政職員、社会福祉協議会職員、ボランティアセンタースタッフ、子育て支援などの支援業務に従事している方、地域リーダー、NPOスタッフ、これから支援活動を考えている方など
※女性のみ受講可能
- 定員: 各20名
- 持ち物: 筆記用具、動きやすい服装(スカート不可)
- 参加費: 無料
- 申込方法: 下記連絡先まで申込
- 主催: (特活)ライフライツ・インパクト東京
- 後援: (財)せんだい男女共同参画財団
- 連絡先: エル・ソーラ仙台 管理事業係
TEL:022-268-8044 FAX:022-268-8045
URL: http://www.sendai-l.jp/

12/10 東アジアは3.11をどう論じたか -東北復興へのメッセージ-

東アジアを代表する研究者、文化人、ジャーナリストが被災地のひとつである仙台市に集結し、東日本大震災を各国・各地域の日本研究者がいかに論じたか、また大震災が各国・地域の日本観、日本人観に及ぼしているのかについて語り、被災地の市民に向けてエールを送ります。

- 日時: 12月10日(土) 13:00~15:30
- 場所: 仙台国際センター2F 大会議室「萩」
- 内容: ★基調講演「東北復興へのメッセージ」
講師: 玄侑宗久氏(作家、福聚寺住職、東日本大震災復興構想会議委員)
★パネルディスカッション「東アジアは3.11をどう論じたか」
モデレーター: 赤坂憲雄氏(学習院大学教授、東日本大震災復興構想会議委員)

★ドラマ部門:音声ファイルによる応募。
防災ラジオドラマの台本を収録した音源による応募。

- 募集内容:・地域の福祉やまちづくりなどの幅広い視点を通して、地域の防災を考えたもの
・地域防災上の課題の改善につながる対策のアイデアを描いたものなど
※2部門ともに放送時の長さが7分以内のものを1作品とする
- 参加資格:・地域の防災力を高めたいと考えているグループ
・コンテストのために新たに結成したグループや複数のグループの共同でも参加可
※個人やプロの脚本家の参加は不可
- 表彰:最優秀賞1点 優秀賞 各部門より5点ずつ
- 申込方法:下記URLより申込
- 申込締切:12月25日(日)
- 主催:独立行政法人防災科学技術研究所
- 連絡先:TEL:03-5414-8349
E-mail:drama@bosai-contest.jp
URL:https://bosai-contest.jp/drama2011/

- 応募方法:所定の推薦書に記入の上、メール、郵送、FAXにて
※推薦書はホームページからダウンロードできます。
- 応募締切:12月31日(郵送の場合、当日消印有効)
- 主催:(特活)日本ファンドレイジング協会
- 連絡先:〒105-0004 東京都港区新橋4-24-10 アソルティ新橋302号
TEL:03-6809-2590 FAX:03-6809-2591
E-mail:info@jfra.jp URL:http://jfra.jp

電話相談

被害者の心のケアサポート専用ダイヤル

震災後のメンタルケアに関する無料電話相談を行っています。
家族に関する相談、不眠や不安などの相談をお受けします。

- 相談電話番号:022-352-8950
- 受付時間:毎週月・火曜日(祝祭日・年末年始は除く)11:00~17:00
- 主催団体:(特活)メンタル・コミュニケーション・リサーチ
- 連絡先:TEL/FAX:022-352-8950
E-mail:mentalcr@yahoo.co.jp

第3回 日本ファンドレイジング大賞への推薦 (申込締切12月31日)

人々に感動と笑顔を与えたファンドレイジングを行った団体を顕彰します。この賞を通じ、寄付の成功事例を明らかにすることで、日本全国にあたらしい寄付文化を生み出していく一助とします。

- 対象:2011年に、NPO(法人格は問わない)としてファンドレイジングを行った団体
※自薦・他薦を問いません
- 対象期間:2011年1月1日から12月30日まで(当該期間中に何らかの活動のあるものが対象です)
- 選考基準:・先駆的な寄付集めの手法によるもの
・広く一般の共感を得たもの
・寄付にあたって人々を感動させたエピソードがあるもの
・寄付が、寄付者と団体と受益者に幸福の連鎖を生みだしたものと等
- 表彰:賞状とトロフィー(賞金はありません)
※2012年2月5日「ファンドレイジング・日本2012」のクロージングセッション」で発表・贈呈式を行います。
※受賞された団体が希望される場合には、国際ファンドレイジング大会(2012年10月開催)の世界ファンドレイジング大賞へ候補団体として推薦します。

いのちの電話 震災ダイヤル

宮城・岩手・福島・茨城の被災地限定で、全国いのちの電話センターの相談員がご相談をお受けします。不安な気持ち、つらいこと、話してみませんか。

- 相談電話番号:0120-556-189
- 受付時間:毎月10日を除く毎日 13:00~20:00
- 連絡先:社会福祉法人仙台的のちの電話
TEL:022-718-4401(土・日・祝日を除く平日)
URL:http://www6.ocn.ne.jp/~sen/

会員募集

山にはいつまでも熊がいて欲しい

日本の生態系の頂点に立つ熊を守れば他の野生動物たちも守れます。私たちは熊が安心して暮らせる場所を確保するための活動を行っており、「人と熊の共生」「人と野生動物との共生」のひとつのモデルになると考えています。

- 活動内容:★耕作放棄地を入手し、その土地本来の植生を再生させる。

ありがとうございます!!

今月の新入会員・継続会員 (2011.11.16現在)敬称略

●正会員40名

●賛助会員24名

★仙台市 ●(特活)童里夢 ●安田邦夫

●情報会員75名

★仙台市 ●ACT53 仙台

●(医療法人社団) 仙台腎泌尿器科

●(財団法人) 宮城県青年会館

●(社団) 宮城県ろうあ協会

●太白ありのまま会

●NALC 宮城「けやきの会」

会員募集

会員種類	年会費
個人正会員	10,000円
NPO正会員	10,000円
法人正会員	20,000円
個人・NPO賛助会員	5,000円
法人賛助会員	30,000円
情報会員	3,000円

郵便 口座番号 02250-0-43800

振替口座 加入者名 特定非営利活動法人 社の伝言板ゆるる (会員申込みの方は、通信欄に会員の種別をご記入下さい)

社の伝言板ゆるるは、地域の課題を解決するために活動するNPOの継続的運営やそれに参加するボランティアの育成を支援している団体です。特に1997年に創刊した月刊ゆるるは、市民活動やボランティアをしたい市民、それを応援したい企業、行政、そしてNPOをつなぐ情報誌として広く活用されています。これからもNPOや参加する市民にとって役立つ情報を発信し、地域の生活環境が向上するように活動していきますので、ぜひ、私たちの会員となって応援してください!!

■会員には毎月「月刊ゆるる」が届きます

※正会員以外は、総会での議決権がありません

information

11月15日までにゆるる編集部に届いた情報です。
詳細は各情報の連絡先にお問い合わせください。

ボランティア募集

学生・若者の ボランティアを募集します！

東日本大震災から早くも半年が過ぎ、被災者たちの生活は避難所から仮設住宅やみなし仮設に移っています。しかし、自分だけの力で生活できる被災者はそれほど多くないのが実情です。
私たちと一緒に被災者の「日常」を支える活動に取り組んでみませんか？

- 内 容:生活支援事業
 - (1)ニーズ聞き取り
各仮設住宅を訪問してニーズを聞き取り、そのニーズに基づいて支援内容を決定、実行します。
 - (2)送迎バス運行
送迎バスは、プロの運転手が運転をおこない、ボランティアが同乗して通院・買い物をサポートや利用者の方々とコミュニケーションをします。
 - (3)就学支援
被災学生の勉強のサポート、悩みの相談、制度利用等(経済面からの支援)の支援を行います。
 - (4)制度利用支援
制度利用について勉強会を適宜行い、複雑な手続きがある福祉制度等の活用をサポートします。
- 申込方法:下記メールアドレスまで申込
- 募集主体:(特活)POSSE
- 連絡先:仙台支部
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3
仙台市市民活動サポートセンター 欠付
TEL:022-266-7630
E-mail:sendai@npoposse.jp
URL:http://blog.goo.ne.jp/sendai-posse

有給スタッフ

託児所内有給スタッフ募集(非常勤)

新しく開設する認可外保育園で一緒に働いてくれる有給スタッフを募集します。スタッフ登録の後、事前に勤務予定が可能か確認しますので、ご自身の働ける時間を上手に使うことができます。

- 活動内容:乳幼児から6歳までの未就学児童(1日定員10名)の認可外保育施設
- 活動場所:仙台市青葉区木町16-39 昇陽ビル208号
- 資格:保育士
- 募集定員:3名前後

- 報酬:9:00~17:00は750円
7:00~9:00の早朝と17:00~19:00の延長は850円
※交通費別途支給
- 申込方法:事前に電話連絡の上、履歴書及び職務経歴書を郵送して申込
- 募集主体:(特活)セージハウス
- 連絡先:〒981-0933 仙台市青葉区木町16-39 昇陽ビル1階
TEL:022-355-7480 FAX:022-355-7481
E-mail:info@sagehouse.jp
URL:http://www.sagehouse.jp/

お知らせ

CAPワークショップ 実施校募集 (2012年3月末まで無料)

CAP(Child Assault Prevention)とは、子どもがいじめや誘拐、性暴力などから自分を守り、自分の心も体も大切にすることを学ぶ教育プログラムです。このワークショップを実施してくれる学校を現在募集しています。

- 内 容:★こどもワークショップ
・「暴力とは」「子どもの権利」「権利をとられそうになったら出来ること」
・対象:就学前~小学生~中学生
・時間:2校時分(90分)※クラスごとに実施
- ★おとなワークショップ
・「CAPプログラムの基本理念」「子どもワークショップの模擬体験」「子供を援助する時の技術と情報提供」「質疑応答」
・おとなが子どもの話に共感して聴くことや子供を援助できる具体的な方法を提案
・保護者/地域の大人向け、教職員向け
・90~120分、人数制限なし
- 申込方法:下記連絡先まで問合せ
- 主催:CAPみやぎ
- 協力:一般社団法人J-CAPTA/公益財団法人日本ユニセフ協会
- 連絡先:CAPみやぎ
TEL:070-5017-4389 FAX:022-295-0882
E-mail:capmiyagi@yahoo.co.jp

第2回 地域の絆をつくる地域発防災 ラジオドラマコンテスト(申込締切12月25日)

防災ラジオドラマとは、行政が作成したハザードマップなどの資料を参考に、災害時に地域で起こりうることを具体的に整理し、ラジオドラマに仕立てたものです。災害時に役立つ地域資源を発見し、地域の絆をつくり、地域の防災力を高めるため、防災ラジオドラマをつくりませんか。

- 募集部門:★台本部門:台本原稿による応募。
防災ラジオドラマの台本(原稿用紙)による応募。

あなたの預けた預金を、地域社会に活かしてみませんか？

社会貢献定期預金
ろうきん

NPOサポーターズ

1年もの定期預金の税引後の満期利息の30%をファンドの財源としてNPOに助成します。

商品概要	お預け入れ商品	スーパー定期、スーパー定期300、大口定期預金
	お預け入れ金額	1万円以上、1円単位(※スーパー定期300は300万円以上、大口定期預金は1,000万円以上となります。)
	お預け入れ期間	1年以上、自動継続方式(元金継続・元利継続)
	金利	お預け入れ時の店頭表示金利
	寄付金	定期預金の契約期間満期日ごとに、利息(税引後)の30%が、「ろうきん地域貢献ファンド」に自動的に振り込まれます。
	寄付の活用	集められた善意の寄付金はろうきんがマッチングする資金と合わせてNPO等を対象に年1回実施する助成制度の財源として活用されます。 ※店頭に説明書をご用意しています。 2011年11月1日現在



2012年
2月29日(水) までに
「NPOサポーターズ」
5万円以上新規契約の方の
中から先着700名様に
施設製品をプレゼント
いたします!!

※この写真はイメージです。
写真と実際の色・柄が異なる場合
がございます。

お問合せ、お申込は東北ろうきん
宮城県内の最寄りの店舗へ



フリーダイヤル

0120-1919-62

ホームページ <http://www.tohoku-rokin.or.jp>

行く行く ろうきんに

第10期

50歳からのNPO実践塾



主催 宮城県(みやぎNPOプラザ)

企画実施 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

事業目的 シニア世代のNPO活動への参加促進のために月に2回程度(5~6回連続講座)のペースで連続講座として開催し、NPO団体の立ち上げやNPOでの継続活動の実践につなぐ。

対象者 『団塊の世代』を中心とした50代以降の年齢層 **実施回数** 6回

実施日時 ●土曜日の午後 14:00~16:30 ●2時間30分【講義2時間、懇談タイム30分(参加自由)】

●日程/1~3月(予定) ※都合により日程を変更する場合があります

- ★第1回/1月21日(土)【まずは顔合わせ&NPOとは】塾生同士の紹介をしながら仲良くNPOの基礎知識を学びましょう。
- ★第2回/2月 4日(土)【ワークショップ「キャリアの棚卸」】自分を振り返り、何が出来るか?どう貢献するかを探ります。
- ★第3回/2月18日(土)【実践者から聞く】実際にNPOを立ち上げ、運営に携わっている方をお招きしてお話を聞きます。
- ★第4回/3月 3日(土)【NPO設立のポイント】法人設立のポイントや定款の大切さについて学びます。
- ★第5回/3月17日(土)【NPO立上りプランニング・ワークショップ】実際に自分が立上げたいNPOについて考え、塾生同士で意見交換をし、活動計画を立てましょう。
- ★第6回/3月24日(土)【NPO活動プラン発表会・修了式】第5回目立てた計画を各自発表し、実現の可能性を探ります。

定員 10名(申込先着順) **参加費** 4,500円(資料代など)

※NPO一日体験やそれにあたりのマッチングは、修了後に希望があれば、その都度対応する